

トルコリラは史上最安値を更新

2020年9月29日

二宮 圭子
シニアFXマーケットアナリスト
SMBC信託銀行
投資戦略部



9月29日、トルコリラは対ドルで7.8542リラ、対円では13円42銭まで下落、史上最安値を更新している（東京時間17時時点）。主因は旧ソ連アゼルバイジャンとアルメニアの軍事衝突を巡り、石油・天然ガスの重要輸送路にあたる南コーカサス地方の政情不安が懸念されたため。2016年以来、両国の紛争は続いているが、アゼルバイジャン軍はアルメニアからの爆撃に対する反撃だと主張し、27日に空爆や砲撃を開始。少なくとも複数の軍人と市民が死亡したと伝えられているが、収束の兆しは表れず、山岳地帯ナゴルノカラバフでの交戦は続く。同地はアゼルバイジャンの領内だが、アルメニア系住民が実効支配する自治州となっている。イスラム教のアゼルバイジャンとキリスト教のアルメニアという宗教上の問題が背景にある。米務省は声明を発表し、両国の敵対行動や事態悪化の言動を停止するよう呼びかけ、ロシアは両国に対して即時停戦を申し入れたが、トルコはアゼルバイジャンを支持すると表明。地政学的リスクが高まるなか、トルコリラ売りが加速している。

東地中海では、トルコとギリシャの天然ガス資源の開発を巡り軍事的緊張感が高まっている。今年7月末には、トルコが掘削作業を一時中断するとしたが、エルドアン大統領は8月に掘削作業を再開すると発表。さらに、東地中海で軍事演習を行うとして、両国の関係は一段と悪化している。トルコは戦争も辞さない構えをみせる場面もみられたが、欧米諸国は同国への制裁を検討していると警告。欧州連合（EU）は10月1、2日の首脳会議で制裁の是非について話し合う予定。軍事的緊張が高まるなか、外貨準備の急減を受けて、トルコリラは連日史上最安値を更新する日が続く。

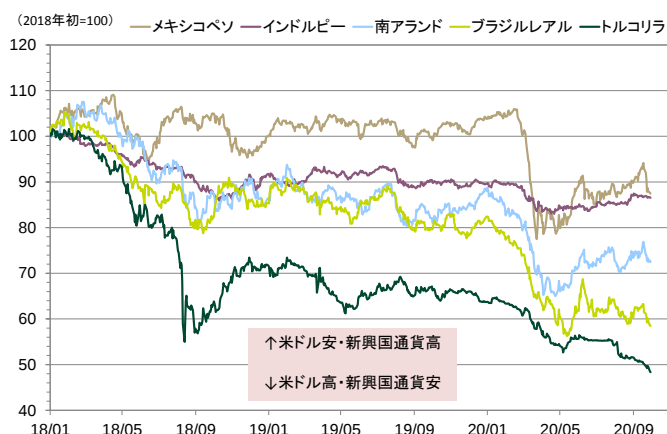
トルコ中銀は9月24日の政策決定会合で、主要政策金利の1週間レポレートに200ベースポイント引き上げて10.25%とした。外貨準備の減少や実質金利のマイナスがトルコリラの減価となり、対ドル、対円ともに年初来25%近く下落した。2年ぶりの利上げを受けて反発する場面もみられたが、上昇は一時的。リラ安に歯止めが掛かる兆しは表れていないが、10月5日発表の9月の消費者物価指数上昇率が前月（前年比11.77%）から伸びが加速するかどうか、トルコ中銀が22日の金融政策決定会合で追加利上げを講じるかどうか注目される。景気刺激策を要求するエルドアン大統領の圧力を受けて、政策金利が据え置きとなれば、中銀の独立性が危ぶまれ市場の信認が低下するだけでなく、物価高が進行し景気回復に水を差す恐れがある。目先のトルコリラは既往の下落スピードに対する調整で反発する展開も想定されるが、史上最安値を更新する可能性は高い。

【図表1】 トルコリラ円のローソク足チャート（週足）



（出所）BloombergのデータをもとにSMBC信託銀行

【図表2】 対ドルの主要新興国通貨の推移



（出所）BloombergのデータをもとにSMBC信託銀行作成